

## 目次

[今週号は 2023 年 1 月 6 日時点の情報を基に作成しています]

マクロ経済コラム：物価上昇率について	1
日本株銘柄情報：三菱総合研究所(3636)	2
日本株銘柄情報：クラウドワークス(3900)	3

## 物価上昇率について

笹木 義次

足下で消費者物価指数の上昇率が加速しています。しかし、その一方で消費者物価指数の先行的な指標はこれまでの傾向に変化が出ています。

円建ての輸入物価指数は、既にピークアウトしています。2022 年 9 月の 189.0 をピークに 2022 年 11 月では 178.9 と 5.3% の下落です。2022 年末から原油価格が軟調になっていることから、輸入物価指数は低下する事が予想されます。輸入物価指数の下落は、いずれ消費者物価指数の上昇率の鈍化要因になると見えています。

消費者が予想する 1 年後の物価見通しの構成比を見ると、5% 以上上昇するとの構成比の上昇が鈍化しています。現実の物価の上昇はこれからですが、消費者のインフレ予想が落ち着いてきた見ることが出来ます。

消費者物価指数の上昇率と長期金利は概ね連動しています。ただし、2008 年以降の連動性は薄れています。長期金利は、日銀の長期金利の変動幅の見直しを受けて上昇しました。長期金利は

これまでの反動から短期的には上昇を見込んでいます。しかし、消費者物価指数の上昇率はいずれ鈍化へ向かうと考えられる事から、長期金利の上昇も限定的になると考えています。



# 三菱総合研究所 (3636)

笹木義次

## 株価指標

株価 (2023/1/6)	4,675.0 円
売買単位	100株
市場	東証プライム
時価総額	768 億円

## 2022年9月期業績は順調

三菱総合研究所は、シンクタンク・コンサルティングサービスとITサービスの二つの事業を行っています。2022年9月期の経常利益は104億93百万円となりました。2023年9月期を最終年度とする中期経営計画2023に取り組んでいます。2023年9月期の経常利益は100億円を目標としていますが、1年前倒しで達成ができました。

シンクタンク・コンサルティングサービスとITサービスの基盤事業への取り組みとこれまでの成長投資の効果によるものと筆者は考えています。

## 2023年9月期業績計画

三菱総合研究所では、2023年9月期の業績は、売上高が1180億円と前年比で1.2%の増収を、営業利益は93億円と前年比で1.5%の増益を、経常利益は106億円と前年比で1.0%の増益を計画しています。

2023年9月期は中期経営計画2023の最終年度になります。2024年9月期から予定される次期中計を見据えた決算となります。

中期経営計画2023の進捗の過程で、人手不足と事業変革の加速が課題として認識される事にもなりました。こうした課題に対応するために三菱総合研究所では2023年9月期では

## <業績の推移>

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2021/9	103,030	6,853	7,568	5,009	308.6	115.0
2022/9	116,620	9,165	10,493	7,707	474.7	140.0
2023/9計	118,000	9,300	10,600	6,500	400.0	150.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

## <投資指標>

連結	
今期予想PER	11.6 倍
PBR	1.20 倍
予想配当利回り	3.20 %

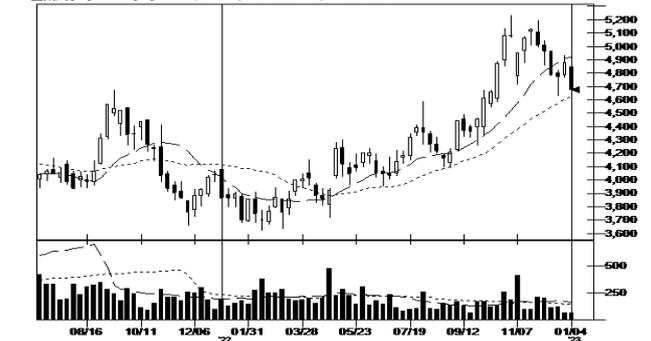
22億円の成長投資を計画しています。成長投資は、人材投資、研究・提言投資、R&D投資、事業基盤投資の4分野への投資です。

4分野への成長投資は、中期経営計画2023の方針のひとつであるVCP経営の機能強化を目指したものと筆者は考えています。VCP経営のVCPとは、価値連鎖の展開プロセスを示したものです。これまでの実績から2023年9月期の成長投資もVCP経営の強化に繋がると筆者は見ています。VCP経営の機能強化により、三菱総合研究所の企業価値の増価にも繋がると筆者は考えています。

## 投資指標は割安な水準

三菱総合研究所の予想配当利回りは3.20%です。2023年9月期の1株当たり配当金は150円を計画しています。実現すれば普通配当としては11期連続増配となります。配当利回りから、株価の下支え要因になると見ています。連続増配は、安定した業績の成長が見込めるという経営層からのメッセージと筆者は理解しています。

3636 三菱総合研究所 21/6/28~23/1/4  
 日付:23/01/06 高:4750 低:4635 現値:4675.00 出来高:18.6  
 前日:4675.00 1日:4675.00 5日:4675.00 10日:4675.00 20日:4675.00  
 1M:4675.00 3M:4675.00 6M:4675.00 1Y:4675.00 2Y:4675.00 3Y:4675.00  
 5Y:4675.00 10Y:4675.00 20Y:4675.00 30Y:4675.00  
 2023年9月期業績計画:売上高1180億円、営業利益93億円、経常利益106億円、純利益6500万円、1株利益400円、1株配当150円



(C) QUICK Corp. All rights reserved. 出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

# クラウドワークス (3900)

笹木 義次

## 株価指標

株価 (2023/1/6)	1,495.0 円
売買単位	100株
市場	東証グロース
時価総額	228 億円

## 2022年9月期業績

クラウドワークスはオンライン等で人材のマッチングを行うマッチング事業を主力事業として行っています。

クラウドワークスの2022年9月期の業績は順調でした。主力事業のマッチング事業の業績は、流通取引総額が192億13百万円と前年比で23.3%の増加に、売上高は103億40百万円と前年比で35.1%の増収に、セグメント利益は11億82百万円と前年比で52.9%の増益となりました。セグメント利益は売上高の増収効果で増益となりました。売上高は流通取引総額の増加で増収となりました。流通取引総額は顧客企業のクラウドワーカーに対する支払総額に相当します。

労働力に対する堅調な需要を背景に、クラウドワークスでは営業体制を強化して単価向上施策に取り組んだ事から、流通取引総額の増加に繋がりました。領域別では、WEB制作・外注、エンジニア・デザイナー、事務・アシスタントの既存主力の3つの領域で、流通取引総額が増加しました。

## 生産性向上

クラウドワークスでは、2020年9月期から2022年9月期までの3ヶ年で生産性向上に取り組みました。その結果、マッチング事業の1人当たり売上総利益は2240万円となり2020

## <業績の推移>

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2021/9	7,769	575	645	622	40.8	0.0
2022/9	10,574	932	946	802	52.6	0.0
2023/9計	13,000	1,000	NA	NA	NA	0.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。  
(注意)2021年9月期は単体決算、2022年9月期以降は連結決算です。

## <投資指標>

連結		
今期予想PER	NA	倍
PBR	4.98	倍
予想配当利回り	0.00	%

年9月期の1480万円と比較して51.3%増加しました。

生産性向上の取り組みは売上総利益を増加させる事から、再投資の余力を増加させ潜在的な成長可能性を高める事に繋がります。事業の規模拡大と言う観点からも、生産性向上の持つ意義は大きい筆者は考えています。

## 2023年9月期業績計画

クラウドワークスでは、2023年9月期の業績は、流通取引総額が228億円と前年比で17.2%の増加を、売上高は130億円と前年比で22.9%の増収を、営業利益は10億円と前年比で7.2%の増益を計画しています。2023年9月期では上半期までは採用を強化するなど投資支出を増加させ、下半期に投資回収を図る計画になっています。

景気動向に関わらず労働市場では、労働力不足となっています。労働力に対する堅調な需要が見込める状況です。527.5万人のクラウドワーカーが登録されている事が、クラウドワークスの優位性に繋がると筆者は見えています。

3900 クラウドワークス 東証 週足 21/6/28-23/1/4  
日付:23/01/06 高:1495 低:1309 定:1480 現値:1495 -3 出来高:69.5  
W:2022年9月期移動平均[13]-----[26]-----MA13:1619.69,MA26:1569.27  
ST:出来高[13]-----[26]-----V:145.1,MA13:534.085,MA26:665.708



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## 金融商品取引法に基づく表示事項

### ■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

### 株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

### お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

### 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント  
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報  
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa